

---

# 令和6年度（第72期） 事業報告

公益財団法人 京都健康管理研究会

自 令和 6年 4月 1日  
至 令和 7年 3月 31日

---

わが国においては高齢化が進み健康寿命の延伸が重要な課題となるなか、予防・診断・治療に加え罹患しても日常生活にできるだけ制限を受けずに生活していくという「疾病との共生」に向けた取り組みが求められている。一方、医学研究分野や最新医療分野の高度分業化、医師を含む研究・医療従事者の高齢化等により医療機関は慢性的な人材不足が続いている。難病についても、正しい知識を持った医療従事者による適切な医療の提供が必要であるが、研究対象となる病気の数も徐々に増加しており、希少な疾病であるため、どこへ行っても診断がつかない、治療経験のある医師が見つからない等、難病をはじめとする難治性の疾患を対象とする専門の研究分野を志す医師等の人材確保が困難になっている。また、医療分野の研究開発および人材育成面においては、安定的・持続的に教育研究活動を行っていくために必要な基盤的経費である国立大学法人運営費交付金等の減少などもあり、難治性の疾患に限らず若手研究者や医師等が自由に研究あるいは自己研鑽する機会や海外において見聞を広げる機会が減っている。

公益財団法人京都健康管理研究会（以下、本財団とする）は、呼吸器系難治性疾患の研究に取り組み、特にサルコイドーシスおよび特発性間質性肺炎などの分野では大学病院にも引けを取らない専門性の高い重要な拠点として診療および研究実績を積み重ねてきた。令和2年度に診療・健診部門を一般財団法人大和松寿会に譲渡して以降も、残余の資産をもって、国民の健康保持、増進に寄与・貢献し「健康の輪」を広げることを目指し、難治性疾患や他の疾病に関する調査・研究の成果を広く社会に啓発・普及させるために医学・医療を中心とする学術分野に関する必要な情報提供を行うとともに、これらに係る人材育成および活動を助成する様々な取り組みを進めている。

令和6年度は、難病をはじめとする難治性疾患等の臨床研究に対し、微力ではあるが、研究の継続、発展の一助となるように、京都府内の大学等の研究機関や医療機関に所属する若

手研究者や医師等への研究費の助成をはじめとする研究・奨学助成事業に取り組むとともに、難病患者団体の活動費の助成や難治性疾患のみならず、その他の疾病に関する情報発信および難治性疾患の患者等の高齢化が進むなかで健康をみずから管理できるような情報発信、啓発に取り組んだ。

## 1. 啓発・普及事業

疾患、特に難治性疾患に対する理解と、難治性疾患の患者等の高齢化による不健康な期間が長くなるリスクが高まるなか、「健康寿命の延伸」に向けた健康増進意識の醸成のため、啓発・普及活動を実施した。

### (1) 一般市民健康講座の開催

よみうりカルチャー大阪との協賛で「市民健康講座：みんなで学ぶ健康学」を2回開催した。

#### ① 令和6年4月6日 TKP 京都四条駅前カンファレンスセンター 8 階ホール

- ・講 師：横松 孝史先生（三菱京都病院院長補佐兼心臓内科主任部長）
- ・演 題：循環器内科から見た健康寿命の延ばし方「心臓をいたわる生活とは」
- ・参加者：131 名

#### ② 令和6年10月19日 池坊短期大学こころホール

- ・講 師：田畑 隆文先生（たはた診療所院長）
- ・演 題：通院がづらくなったとき、自分の望む場所で、穏やかに過ごすために診療所ができること「在宅医療の窓辺から」
- ・参加者：102 名

### (2) 医療関係者に対する啓発・普及のための講演会・勉強会等の開催等

国民の健康保持、増進に寄与・貢献し「健康の輪」を広げることを目指し、他団体が開催するセミナーに医師である長井理事長を講師として派遣した。

#### ① 令和6年6月29日 ハートピア京都

- ・主 催：京都芸術家国民健康保険組合
- ・テーマ：たばこの害について・禁煙への取り組み

#### ② 令和6年7月11日 京都ガーデンパレス

- ・主 催：同志社彰栄会
- ・テーマ：シニアの健康管理「呼吸器疾患について」

### (3) 啓発資料の季刊誌・冊子等の発行

ア.「健康塾通信」(本財団広報誌)の発行

令和6年4月15日(通巻第25号)、令和6年7月15日(通巻第26号)、  
令和6年10月15日(通巻第27号)、令和7年1月15日(通巻第28号)を刊行した。

#### (4) 京都府内で開催される難病に関する講演会・勉強会への助成

難病患者団体活動助成として、京都府内で活動する難病患者団体等が行う啓発・普及活動について、その団体が行う事業の一環として行う講演会・勉強会・相談会や懇親会等、公益性があると思われる活動について助成を行った。

令和6年度については、令和5年10月1日から11月30日の公募期間に応募のあった3件について、難病患者団体活動助成選考委員会(令和6年1月18日開催)を経て理事長が決定した次の助成を行った。

##### ① 特定非営利活動法人京都難病支援パッションネ

「難病カフェパッションネ」開催費用(3万円)

##### ② 京都わらび会(稀少難病者・児と家族の会)「難病カフェわらび」開催費用(10万円)

##### ③ 全国膠原病友の会京都支部

京都府北部地域特別交流会開催費用等(7万円)

なお、令和7年度に実施する難病患者団体活動助成は、令和6年10月1日から11月30日の公募期間の応募分および追加申請分について、難病患者団体活動助成選考委員会(令和7年1月9日および令和7年3月3日開催)の審議を経て助成対象者を決定した。

## 2. 研究・奨学助成事業

呼吸器系をはじめ、難治性疾患を対象とする研究分野を志す医師等の人材を確保することが困難となっており、専門性の高い人材の確保は急務となっている。そのため呼吸器系はもとより、各領域での難病をはじめとする難治性疾患という専門分野を志す研究者や医師等、若手人材の育成の一助となるよう、研究機関や臨床医療機関での研究費、学会等の運営費、また、海外留学費用や専門知識の習得あるいは意見交換等を目的とする海外で開催される国際学会等への参加費用など、各助成を進めた。

大学および大学病院、民間病院等約100先に募集案内および募集ポスターを配布、さらにWebサイトに募集案内を掲示するなど、令和6年度の研究・奨学助成については、申請を随時受け付ける「学会・講演会等の運営助成」を除き、令和5年9月1日から10月31日の期間に公募により応募者を募ったうえ、呼吸器系、循環器系等の幅広い分野の研究者等で構成する研究・奨学助成選考委員会の審議を経て決定した助成を実施した。

なお、令和7年度に実施する研究・奨学助成は、令和6年9月1日から10月31日の公募期間の応募者について、研究・奨学助成選考委員会(令和7年1月18日開催)の審議を経て、助成対象者を理事長が決定した。また、随時受付の「学会・講演会等の運営助成」および「海外開催の国際学会等への参加経費等助成」の追加申請分については、助成金額基準に基づき理事長が専決した。

## (1) 研究助成

京都府内の大学等の研究機関あるいは臨床研究および臨床に携わる医療機関の在籍者、ならびに他府県で同様の機関に在籍する京都府内在住者が行う難病指定疾患等の調査・臨床研究に1件100万円を上限に6件までを助成する「研究助成」については、公募期間に応募のあった17件について、研究・奨学助成選考委員会(令和6年1月13日開催)の審議を経て理事長が決定した次の各100万円、合計500万円の助成を行った。

- ①堀江 博司(京都大学大学院医学研究科 肝胆膵移植外科)  
「脱細胞化肝臓を用いた3次元胆汁排泄システムの構築」
- ②大島 洋平(京都大学医学部附属病院 リハビリテーション部)  
「慢性呼吸器疾患における胸部CT画像を利用した呼吸サルコペニアの最適診断法の確立と呼吸リハビリテーション介入効果の検証」
- ③白柏 魅怜(京都大学医学部附属病院 免疫膠原病内科)  
「関節リウマチの発症、活動性に関与する口腔内細菌の組み合わせの同定」
- ④池添 浩平(京都大学大学院医学研究科 呼吸器内科学)  
「特発性肺線維症における単核球由来蛋白の臨床的意義の検討」
- ⑤桐田 雄平(京都府立医科大学 腎臓内科)  
「形質細胞様樹状細胞に着目したIgA 腎症発症および治癒機序の解明」

## (2) 海外留学助成

京都府内の大学等の研究機関あるいは臨床研究および臨床に携わる医療機関に所属する研究者・医師、または研究者を目指す大学院生、卒後研修機関の研修医等が、世界中から集まった多様な研究者との交流に加え異文化に交わるなかで刺激を受けながら難病指定疾患等に関連する臨床に係る研究等を行うための海外留学に1件120万円(2年間)を上限に2件までを助成する「海外留学助成」については、公募期間に応募のあった9件について、研究・奨学助成選考委員会(令和6年1月13日開催)の審議を経て理事長が決定した次の各120万円、合計240万円の助成を行った。

- ①大林 祐樹(京都大学大学院医学研究科 循環器内科学) 2年間  
オランダ Leiden University Medical Center  
「三尖弁逆流症の予後予測に有用な新規心機能指標の確立」
- ②出口 英人(京都府立医科大学 眼科学教室) 2年間  
米国 Buck Institute for Research on Aging  
「角膜上皮幹細胞疲弊症に対する免疫老化をターゲットとした治療法の開発」

なお、令和5年度に助成した2件の海外留学助成の2年目分(各120万円、合計240万円)についても引き続き助成を実施した。

### (3) 海外開催の国際学会等への参加経費等助成

京都府内の大学等の研究機関あるいは臨床研究および臨床に携わる医療機関に所属する研究者・医師、または研究者を目指す大学院生、卒後研修機関の研修医等が、難病指定疾患等に関連する調査・臨床研究等のための研究情報収集や情報交換等、海外で異文化に触れ、見聞を広げるために海外で開催される国際学会等に参加する経費について1件25万円を上限に20件までを助成する「海外開催の国際学会等への参加経費等助成」については、公募期間に応募のあった5件および追加申請のあった14件について、研究・奨学助成選考委員会(令和6年1月13日開催)の審議を経て理事長が決定あるいは助成金額基準に基づき理事長が専決した次の各25万円、合計375万円の助成を行った。

- ①吉田 常恭(京都大学大学院医学研究科 臨床免疫学)  
オーストリア「欧州リウマチ学会」
- ②石黒 義孝(京都大学医学部附属病院 初期診療・救急科)  
ドイツ「集中治療に関する冬期講習会」
- ③恒光 健史(京都大学医学部附属病院 初期診療・救急科)  
ドイツ「集中治療に関する冬期講習会」
- ④陣上 直人(京都大学医学部附属病院 高気圧酸素治療センター)  
ドイツ「集中治療に関する冬季講習会」
- ⑤比良野 圭太(京都大学大学院医学研究科 人間健康科学)  
スウェーデン「第61回欧州腎臓学・透析移植学会議」
- ⑥中山 洋一(京都大学大学院医学研究科 臨床免疫学)  
米国「アメリカリウマチ学会年次集会2024」
- ⑦山形 昂(京都大学iPS細胞研究所)  
米国「American Thoracic Society2024」
- ⑧金田 和久(京都大学大学院医学研究科 循環器内科学)  
米国「The American Heart Association Scientific Session2024」
- ⑨小松 周平(京都第一赤十字病院 消化器外科)  
米国「2024年 米国外科学会」
- ⑩金下 峻也(京都府立医科大学附属病院)  
米国「アメリカリウマチ学会年次集会2024」
- ⑪辻 英輝(京都大学医学部附属病院 免疫・膠原病内科)  
米国「アメリカリウマチ学会年次集会2024」
- ⑫中島 鑑(京都府立医科大学附属病院 精神機能病態学/精神医学教室)  
インドネシア「第10回アジア精神医学会世界大会」
- ⑬西川 隆介(京都大学医学研究科)  
米国「米国心臓病学会2025」

- ⑭森 雄一郎(京都大学大学院 医学研究科医学専攻)  
米国「第74回アメリカ心臓病学会学術集会」
- ⑮水野 良祐(京都大学大学院医学研究科 消化管外科学)  
米国「米国内視鏡外科学会2025」

#### (4) 学会・講演会等の運営助成

難病指定疾患の解明等およびこれらの啓発活動を行うことを目的とする、京都府内の研究者またはグループが主催する学会(国際学会・国際会議・シンポジウムを含む)あるいは開催地が京都府内の学会・講演会の運営費について1件50万円を上限に6件までを助成する「学会・講演会等の運営助成」については、申請のあった10件について、研究・奨学助成選考委員会(令和6年1月13日および令和6年3月9日開催)の審議を経て理事長が決定あるいは助成金額基準に基づき理事長が専決した次の助成、合計230万円を行った。

- ①第44回日本サルコイドーシス／肉芽腫性疾患学会総会(50万円)
- ②第9回日本心血管協会(JCVA)学術集会(10万円)
- ③ILLS Single Topic Conference in Kyoto 2024(50万円)
- ④第15回呼吸機能イメージング研究会学術集会  
第11回呼吸機能イメージング国際ワークショップ(20万円)
- ⑤第162回びまん性肺疾患研究会(20万円)
- ⑥再生誘導治療および関連技術に関する国際シンポジウム(25万円)
- ⑦第21回近畿サルコイドーシス／肉芽腫性疾患研究会(10万円)
- ⑧第163回びまん性肺疾患研究会(20万円)
- ⑨第1回 Respiratory Research Conference in Kyoto(25万円)

### 3. 医療相談等事業

難治性疾患に関する専門的な知識を活用した医療相談事業、医療教育講習事業については、相談依頼、開催依頼がなかったことから実施しなかった。

### 4. 広報活動

「健康寿命の延伸」に向けた健康増進意識の醸成ならびに助成事業等の本財団の活動を広く周知することを目指し、Webサイト等の充実を図った。

#### (1) Webサイトの活用

本財団が取り組む助成事業の詳細や応募要項および市民健康講座の案内のほか、本財団が発行した「健康塾通信」などを掲載し、情報発信ツールとして活用するとともに事業成果の社会還元を進めた。

## 5. その他

### (1) 理事会の開催

#### ① 令和6年度第1回理事会(令和6年5月4日決議の省略の方法による)

議案:・評議員会の招集および監事1名の選任を評議員会に提案する件

#### ② 令和6年度第2回理事会(令和6年5月24日開催)

議案:・令和5年度(第71期)事業報告および決算報告承認の件

- ・常務理事選任の件
- ・評議員および理事選任の件
- ・学会・講演会等の運営助成件数の超過対応の件
- ・令和6年定時評議員会開催の件

#### ③ 令和6年度第3回理事会(令和7年3月14日開催)

議案:・令和7年度(第73期)事業計画および収支予算の件

- ・50万円を超える研究・奨学助成を行う件

### (2) 評議員会の開催

#### ① 令和6年度第1回臨時評議員会(令和6年5月11日決議の省略の方法による)

議案:・監事1名選任の件

#### ② 令和5年度期(第71期)定時評議員会(令和6年6月15日開催)

議案:・令和5年度(第71期)事業報告および決算報告承認の件

- ・評議員および理事選任の件

### (令和6年度事業報告附属明細書)

令和6年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので、作成しない。

以 上